

<ワン・ポイント・レクチャー> こども未来コース(基礎編)

第2回: 性格は変えることができるの？

性格(Personality)の語源は Persona(仮面)。人生の轍の中で絶え間なく遭遇する人的・物的環境に応じた“仮面”を身に付けることで私たちは生きることができています。その意味で、身につけた“仮面”はその時々環境から自らを防衛するために必要不可欠なツールだったんです。成長に伴ってさまざまな環境の中に身を置くようになると、その環境に馴染むために、バウムクーヘンの層のように“仮面”が積み重なって“性格”が出来上がります。

結論から言えば、“性格”は変えることはできます。ただ、“性格”を変えることは、身を守るために必死になって手に入れた武器のすべて、或いは一部を放棄することになります。場合によっては無防備な子どもになってしまいますが、その後の嵐のような人生を乗り越えていかなければならない子どもにとっては、性格を変えることを保護者が望むのは如何なものでしょうか？

もしそれでも子どもの性格を変えたいと望まれるのであれば、性格が変わったことに伴い子どもを取り巻く環境も新たな変化が生じますので、子どもは新たな仮面を身に着けざるを得なくなります。新たな環境に適応・順応できる子どもであることを望むのであれば、“性格”を変える以前に、子どもの自己肯定感を高める働きかけが絶対不可欠です。でも、子どもの性格を変えたいと願っている保護者は、子どもに対して子どもの自己肯定感を高めるような関わり、つまり、子どもの良い面をしっかりと理解し、子どもを信頼した関わり方をしているとは思えません。

言い換えると、子どもの性格を変えることを望むのであれば、まずは保護者の性格を変えることができるかを試した後に性格を変えることは余程容易ではないことを認識し、それでも子どもの性格を変えようとするのであれば、保護者としてのこれまでの関わり方を変えることを強く意識し、それでもなかなか変えることが出来ない自分に悪戦苦闘しながら子どもの性格の一部分のみを変えられるように関わり続けることが重要です。